



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2014.5.第30号
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://www1.ocn.ne.jp/~y-ikuji



平成二十六年度も早や二ヶ月が過ぎようとしています。子ども達もそれぞれに進学・進級をして、新しい生活に慣れてきた頃ではないでしょうか。

さて、昨年四月に山口育児院の施設長に就任して一年が経ちました。右も左も分からぬまま皆様にご迷惑をおかけしながらも、関係各位並びに育児院の児童・役職員の皆様を支えられながら何とか務めてまいりました。昨年この誌上にも書きましたが、「児童養護施設の施設長というのは、子ども達や職員の方々に育てて頂くのだ」ということを、一年経った今、改

新年度を迎えて 施設長 武重俊之

めて有難いと感謝しております。しかし、その皆様のお力添えに自分がどれだけ応えられているかと聞かれれば、誠に汗顔の至りです。現在小袖が住職を務めております臨濟宗寺院では、昨年遷化した弊師の一周忌法要を三月に厳修いたしました。その時に檀信徒の皆様にご記念品として、生前に弊師が書いた色紙の複製を額に入れてお配りいたしました。その色紙には「永遠に 花」と書かれてあります。これは弊師の修行の師であり、飯田蛇笏門下の俳人でもありました中川宋淵老大師の、

花の世の 花のようなる 人ばかり

という俳句を意識していたものと思われまふ。弊師はこの句を大変気に入っておりました。弊師の目にも、この世は「花の世」であり、その中の人は老若男女、善人悪人の差別なく全ての人が「花のようなる人ばかり」と見えていたので

春の山 行けば道あり ところまでも

という句もありまふ。これは本当に勇気を貰える句です。行くか行かないかは己自身の問題かもしれませんが、行けば必ず道はあると信じて、精進してまいりたいと思っております。

本年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

		本部	施設
事業活動による収支	収入		
	措置費収入	0	115,390,075
	その他の事業収入	0	583,740
	経常経費寄附金収入	100,000	881,000
	受取利息配当金収入	70,431	544,243
	その他の収入	0	3,379,040
経常収入計	170,431	120,778,098	
支出	人件費支出	189,000	89,145,598
	事務費支出	133,194	4,390,139
	事業費支出	0	23,129,103
	その他の支出	0	903,300
	経理区分間繰入金支出	0	0
	経常支出計	302,194	117,568,140
経常活動資金収支差額	-131,763	3,209,958	
施設整備による収支	収入		
	施設整備等補助金収入	0	1,320,000
	固定資産売却収入	0	0
	施設整備等収入計	0	1,320,000
	支出		
設備資金借入金元金償還支出	0	1,320,000	
固定資産取得支出	0	1,166,760	
施設整備等支出計	0	2,486,760	
施設整備等資金収支差額	0	-1,166,760	
その他の活動による収支	収入		
	積立資産取崩収入	0	2,026,470
	財務収入計	0	2,026,470
	支出		
	積立資産支出	0	1,182,900
その他の活動による支出	0	990,000	
その他の活動支出計	0	2,172,900	
財務活動による収支差額	0	-146,430	
当期資金収支差額合計	-131,763	1,896,768	



平成二十五年年度決算報告は次の通りです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

資産の部		負債の部	
流動資産	143,938,17	流動負債	35,144,96
固定資産	239,802,101	固定負債	19,975,476
基本財産	155,276,038	負債の部合計	23,489,972
その他の固定資産	84,526,063	純資産の部	
		基本金	61,852,105
		国庫補助金等特別積立金	121,009,320
		その他	61,000,000
		次期繰越活動収支差額	-5,798,599
		純資産の部合計	230,705,946
資産の部合計	254,195,918	負債及び純資産の部合計	254,195,918

歩々清風

四月に消費税が5%から8%に上がり、節約の必要性に迫られています。

以前ノーベル平和賞を受賞された故ワンガリ・マタイさんによって、日本語の「もつたいない」という言葉が世界に広められました。これは日本の誇るべき精神だと思います。決して「けち」になるのではなく、必要なものとそうでないものをしっかりと見極め、「活かして使う」ということです。しかし、活かすのは物だけではありません。心も活かして使うことが大切です。心を活かすとはどういうことか？それは思いやりをもって人と接するということです。育児院の理念に、心の働きが「慈・和・直」であり、それを自覚することが大切だと謳っています。その自覚が「活かす」ということだろうと思います。豊かな心を活かせるよう、お互いに精進してまいります。

(丁)



案内

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。

トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病气、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。



四月一日は毎年居室替えの日です。朝九時に新しい居室配置の発表があります。育児院の居室は二人部屋と四人部屋の二種類ですが、果たして今年度は誰と一緒にの部屋になるのかな？と皆ドキドキして発表を待っています。いざ発表すると、「やったー！」と喜び子もいれば「えー！」と不満げな子もいますが、それでもその後は全員一斉に居室替え大掃除です。この日は職員も休日返上で全員出勤。児童と一緒に居室をピカピカにします。お盆やお正月前にも掃除はしますが、それでもゴミが呆れる

新年度スタート！
居室替え大掃除



くらいに出てきます。普段から綺麗にしている子は掃除も早く済みますが、片付けが苦手な子は汚すぎてどう片付けたらいいのかわかりません。「先生、これどこに捨てるん？」「これ燃えないミツ」頭の中は？マークで一杯です。それでも職員に怒られながら一生懸命に頑張ります。片付け終わった後は本当に気持ちがいいです。どうかこの綺麗な状態が長続きしますように。さてさていつまで綺麗に保てることやら・・・。

四月から新しく幼稚園、小学校、中学校、高等学校と進学した子ども達がいまいます。幼稚園には二名の男の子が入園しました。今までお兄ちゃん達が幼稚園に行っている間も院でお留守番をしていました。早くお兄ちゃん達と一緒に幼稚園に行きたいなあと心待ちにしていました。最初叶ってついに幼稚園生です。最初は少し緊張していたけれど、すぐに慣れて毎日楽しく通園しています。年長になったお兄ちゃんも、院でも「幼児さんのリーダーだからお手本になるように頑張れ！」と上手に煽てられ（？）、張り切っています（笑）。

新しい学校、頑張ってます！
新入生

四月から新しく幼稚園、小学校、中学校、高等学校と進学した子ども達がいまいます。幼稚園には二名の男の子が入園しました。今までお兄ちゃん達が幼稚園に行っている間も院でお留守番をしていました。早くお兄ちゃん達と一緒に幼稚園に行きたいなあと心待ちにしていました。最初叶ってついに幼稚園生です。最初は少し緊張していたけれど、すぐに慣れて毎日楽しく通園しています。年長になったお兄ちゃんも、院でも「幼児さんのリーダーだからお手本になるように頑張れ！」と上手に煽てられ（？）、張り切っています（笑）。

小学校には男の子が一人入学しました。今までは幼児さんでしたが、これから小学生です。小学生になると院での生活時間も変わり、お風呂の時間や就寝時間等、お兄ちゃん達の仲間入りです。学校は勉強が少し苦手だけれど、頑張って楽しく登校できています。四月は集団下校やお迎えをしますが、これから徐々に一人登下校が出来るように練習しましょう。

中学校には男の子一人と女の子二人が入学しました。それぞれの都合で三人別々の学校に行くことになりましたが、元気に通えています。男の子は小学校時に野球のスポ少に入っていました。中学校に入ってからテニス部に入学しました。女の子は、一人は吹奏楽部に入部し、もう一人はこれから陸上部に入るかと考えています。文武両道目指して頑張りたいと思います。

高校へは男の子一名と女の子二名が入学しました。皆別々の高校ですが、男の子は卓球部に入部、女の子の一人は科学部に、もう一人はまだ入っていませんが、高校生活で自分のやりたいことを満喫しようと頑張っています。

それぞれが新たな環境で一杯頑張れるよう、我々もしっかり支援していきます。と思っています。



理念

こころ「慈・和・直」

こころの働きは「慈・和・直」の三つに集約できる。

- 「慈（慈悲）」
 - 愛情 思いやり
 - 象徴的な言葉 「好きです」「愛しています」
- 「和（やわらか）」
 - 和合 協調性
 - 象徴的な言葉 「ありがとう」
- 「直（すなお）」
 - 素直さ
 - 象徴的な言葉 「ごめんなさい」

慈悲とは・・・慈は「与楽」、悲は「抜苦」であり、幸福を与えて苦しみを抜き去ること

「慈・和・直」とはこころの働きのことであり、人間の基本となる。そのような「こころ」とは他から学んで身につけるものではなく、誰もが本来具有しているものである。エゴで曇らされているその「こころ」を自覚し、上記の象徴的な言葉を自自然と発することが出来るようなこころ豊かな人間形成を目指す。

基本方針

おのれこそ おのれによるべ おのれをおきて だれによるべぞ
よくととのえしおのれにこそ まことえがたき よるべをぞえん

自分自身を拠り所とする。
それは決してエゴや我儘一杯のおのれではなく、「よくととのえしおのれ」であり、よくととのえられたおのれとは、「慈・和・直」を自覚したおのれである。
自分自身を拠り所とするということは、自分自身を信じられるようになることであり、それが自立に繋がっていく。

山口育児院は、児童と職員がそれぞれの立場・役割を担いながら、ともに「よくととのえしおのれ」を自覚することを目指して成長していく場である。

山口育児院は明治37年、時の洞春寺住職が日露戦争の戦災遺児を引き取って養育したのが始まりであり、創設の理念は「仏教の大慈悲心」です。
しかしながら、時代とともに「大慈悲心」だけでは一般の理解が難しくなっています。そのため、今回分かりやすく明文化いたしました。